

## 日常生活 Risk に関する認識

### —地域生活の継続に影響を与える Risk とその認識について—

○ 名寄市立大学 長谷川 武史 (7118)

キーワード：日常生活 Risk、地域生活、リスクコミュニケーション

#### 1. 研究目的

Risk とはその発生予見が可能な事象のことであり、今日、保険・医療・介護・産業など様々な分野でこの概念が扱われ、その分野における研究が行われている。日常生活上にも様々な Risk が存在し、人々は Risk からの被害の程度を自ら想定し、日常生活を営んでいる。自らで対処出来るものであればその対処を自ら行うこともあるが、中には、一度発生すると、生活環境自体の変化・転換を余儀なくされる事象も存在する。

本研究では、日常生活において人々がどのように Risk を認識しており、地域生活に影響を与える Risk が発生した際の対応方法とその対策を明らかにすることを目的とする。

用語の使用として、危険事象の発生予測把握が可能な事象のことを「Risk」、発生予測把握が出来ず突如現れる事象を「Danger」と区別している。

#### 2. 研究の視点および方法

Risk への対処策は、通常リスクコミュニケーションにおいて決定される。適切なリスクコミュニケーションを行うことが出来れば Risk 発生時の影響も低く抑えることが可能であるが、不十分な場合には、大きな損害を被ってしまう。

本研究では、過去の地域生活で発生した Risk に対してのリスクコミュニケーションの事例を元に、地域住民に対してのリスクコミュニケーションの方法と、Risk への認識の程度についての整理を行った。

#### 3. 倫理的配慮

本研究は主に文献研究であり、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」を遵守し引用文献および事例を使用している。

#### 4. 研究結果

一般的にリスクコミュニケーションを行った際、実際の危険性<専門家の判断<一般住民というように、Risk からの影響を大きく見積もる傾向にあり、Risk 事象と関係性により受ける印象には多様性が生まれる。

しかし、今まで想定していなかった新たな問題発生の場合や、分析するデータが少ない場合は、正確な影響を導き出すことが難しくなる。適切な評価尺度を持ち合わせていなければ、実際に Risk 事象が発生した際に十分な対策が取れず多大な影響を受けてしまうこと

もあれば、過剰な対応策により Risk 事象に関することで本来得られるはずであった利益を十分享受することが出来ない実態が発生する。

また不十分あるいは不適切なリスクコミュニケーションにより、過剰な不安を与える、情報を制限した場合、Risk 事象への認識自体が形成されなく、Risk 事象から被害を受ける者の問題意識や危機意識が十分に形成されず、Risk 発生時の影響が大きくなることもある。適正なリスクコミュニケーションの実施が Risk 事象への対応には非常に重要である。

## 5. 考察

Risk 事象というものは、突如発生したものに即応出来るというのではなく、過去の出来事や経験の蓄積が整っていることで、初めて対応できるものである。またそれが一個人で対応出来ないものであれば、その対処策を専門家から得ることを望む。Risk 事象に関する専門家としても、Risk の影響を広く伝え、当事者間での共通理解を図っていくことが、Risk 対処の前提となる。しかし、その専門家からの情報が不適切・不十分であった場合、一個人での Risk 認知は困難なものとなる。また、その Risk 事象が特定の地域に対し、時間的・文化的に根深く入り込んでいる場合もまた、Risk 認知を歪める事態が起こる。そのような Risk 認知の不適切・不十分な状態や、認知の歪みが起こる要因として、リスクコミュニケーション実施の困難さが考えられ、実際に Risk 事象が具現化した場合には、「Danger」として現れた場合と同じような対応の困難さを生む可能性がある。

想定される Risk 規模が大きく、複雑なシステムにより利害関係が絡まり合う事態の場合、加害者側の責任所在の在り方が不明瞭になり、Risk 事象の影響を受ける可能性のある地域住民が、その Risk 事象の要因自体の維持に関わっている仕組みが存在してしまうなど、適切な Risk 対処を阻害する要因が数多く存在する。

利害関係が重層的に様々につながり絡み合う社会において、その中で発生する生活環境を大きく変えてしまう Risk 事象に対して、どのような姿勢を取るべきか、事前に想定した地域環境を作るということは、実際として多大な課題や障壁が存在する。今後の社会生活においては、リスクコミュニケーションが益々その重要性と適正な実施が求められている。

地域生活に存在する全ての Risk に対して、対処策を持ち合わせ、地域生活を継続していくということは、おそらく不可能である。今後の社会として、新たに発生し対策が求められる Risk 事象もあるだろう。東日本大震災後の被災各地において、大きく変化した地域環境への支援に保健医療福祉の専門職が貢献している。

各専門職者で対応する Risk 事象と利害関係者間の十分なリスクコミュニケーションによる Risk への認識と感覚が継続的な地域生活には重要になっている。